

第2次糸島市長期総合計画 まちづくり市民委員会

～みんなで語ろう！

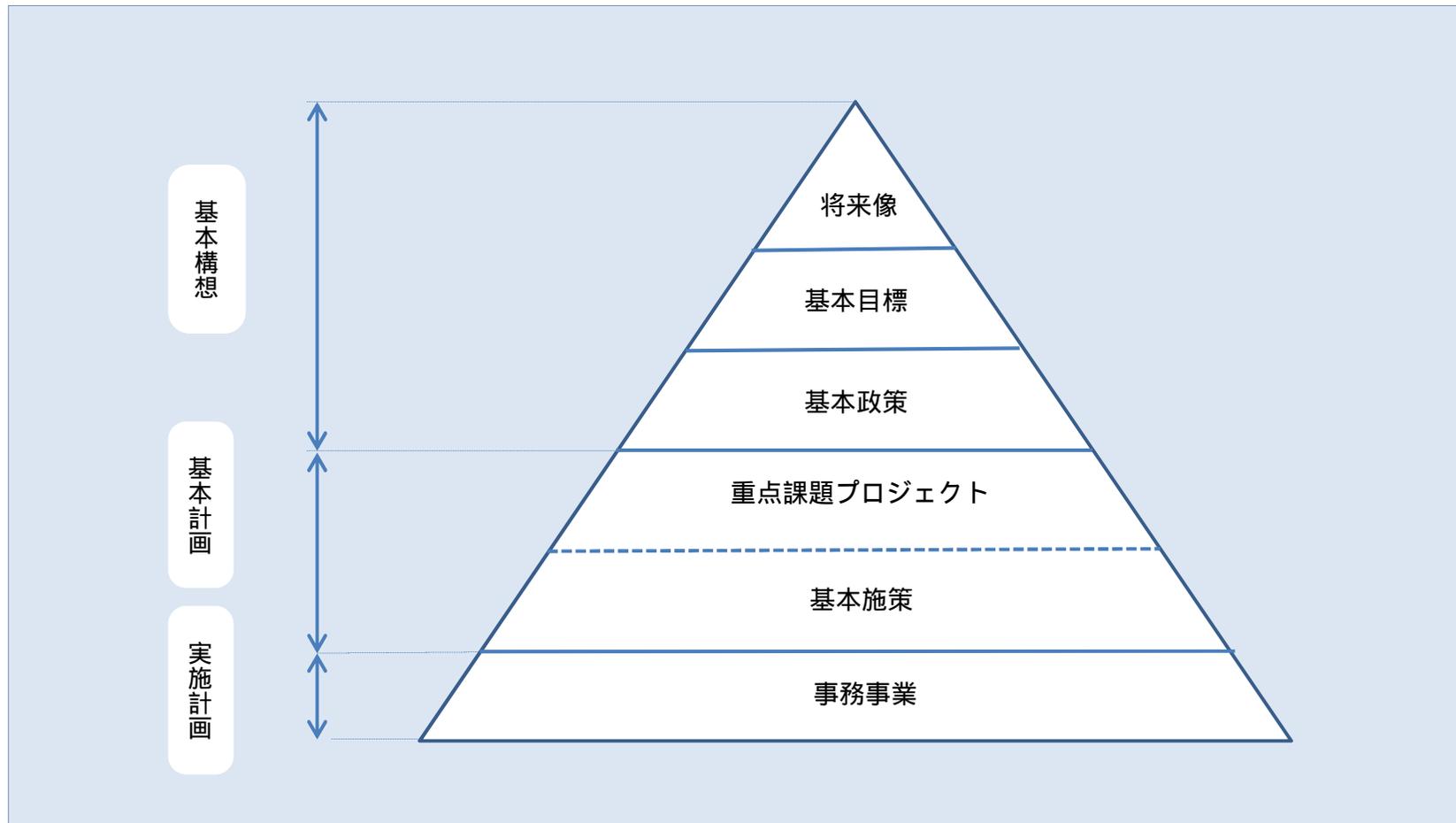
糸島の魅力について～



1 長期総合計画とは

- 糸島市の最上位計画（まちづくりの羅針盤）
- 市民の皆さんと“まちづくりの方向性・将来像”を共有
- 総合計画に基づき、すべての政策・施策を展開

2 第2次長期総合計画の構成イメージ



4 平成 30 年度に実施した市民参画に関する取組

高校生未来会議 “いとしま”

市内在住・在学の高校生（30 人程度）によるワークショップ・グループワークなどを行い、“どんな糸島にしていくか”“何を乗り越えなければならないのか”“自分たちに何ができるのか”などを話し合います。

中学生 “いとしま” 未来への提言

中学校で実施している“いとしま学”の学びを基礎として、10年後、20年後の未来を担う生徒ひとり一人に、“こんな糸島になってほしい”を題材とした作文（未来図）を書いてもらいます。

市民満足度調査

18歳以上の市民2,000人を対象に、これまでのまちづくりに対するアンケート調査を実施。

まちづくり市民委員会

市内在住の中学生以上の市民（100人程度）で、高校生未来会議や中学生未来への提言、市民満足度調査などを踏まえ、ワークショップ・グループワークなどを行い、将来像や基本目標、具体的な取組などを話し合います。

5 課題整理・分析作業について

(1) 市民アンケート調査結果

【調査対象】 18歳以上の市民2,000人

【回収結果】 有効回収数：1,017人（回収率：50.9%）

糸島市での暮らし全般についての総合満足度

10点満点中6.73点

【問36】 加重平均による算出（「不明・無回答」は、有効回答数から除外して算出）

参考：平成30年度福岡県県民意識調査

調査項目	評価点	備考
県民の幸福実感	6.57点	どの程度幸せかを0～10点で評価 「とても幸せを」10点、「とても不幸」を0点

糸島市が好きか、住みやすいか、住み続けたいか

区分	H30		H29		H26		H24	
		「好き」との差		「好き」との差		「好き」との差		「好き」との差
好き ¹	91.4%	-	84.0%	-	80.9%	-	83.9%	-
住みやすい ²	80.1%	11.3ポイント	77.5%	6.5ポイント	70.2%	10.7ポイント	76.4%	7.5ポイント
住み続けたい ^{3、4}	79.8%	11.6ポイント	77.9%	6.1ポイント	68.0%	12.9ポイント	70.7%	13.2ポイント

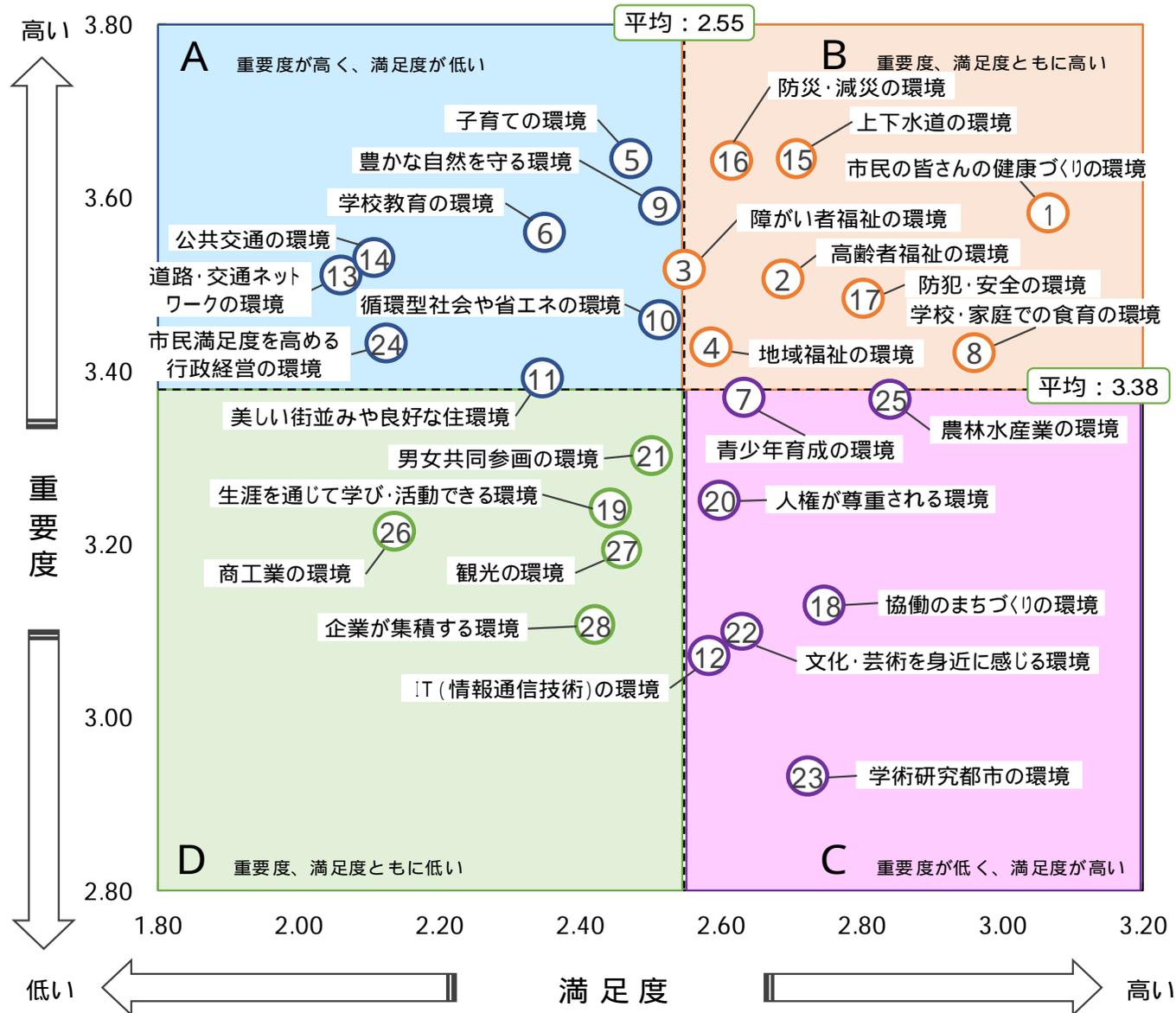
1 「好き」「どちらかと言えば好き」の計

2 「住みやすい」「どちらかと言えば住みやすい」の計

3 「住み続けたい」「どちらかと言えば住み続けたい」の計

4 H26年度とH24年度の「住み続けたい」は、「今住んでいる場所に住み続けたい」「糸島市内の別の場所に引っ越したい」の計

満足度・重要度散布図



左の図は、各項目の満足度および重要度について、回答者全員の平均値の分布を示したものです。市の取り組み 28 項目について回答者の満足度（「満足」回答数×4点、「やや満足」×3点、「やや不満」×2点、「不満」×1点）と重要度（「重要」回答数×4点、「やや重要」×3点、「そこまで重要でない」×2点、「重要でない」×1点）を得点化し、回答者全員の平均値を項目ごとに算出しました。

(2) 中学生“いとしま”未来への提言(作文)結果

【テーマ】「私が考えるいとしまの未来」

【応募対象】中学2・3年生

【作文作成者数】6中学校：856人

【作品選出数】17作品

作文の主な内容

【こうあってほしい糸島】

- 大きな病院をつくることで、人が集まり、大災害にも対応でき、自然の中で療養できる。大人になっても安心して住み続けられる糸島を創る。
- 引越してきてまだ7年で、糸島のことは、自然や食べ物など、簡単なことしか分からない。私のような人も多いと思う。糸島を知り、愛される糸島にするため、中学生のころから糸島を学び、発信する。
- 「障害はその人にあるのではない、環境にあるのだ。」と聞いた。「バリアフリー社会」を実現し、糸島に住む全ての人が暮らしやすいまちになってほしい。
- 移住する人が増えて、人の繋がりが濃くなったり、商店街が活性化したりして、賑やかなまちを創る。
- まちづくりは、そこに住む人の想いや声やアイデアで始まる。大人も子どもも、みんなの声がまちづくりに反映されたら、政治がもっと楽しくなると思う。
- 未来は情報化が進む糸島。農業をロボットが手伝ったり、高齢者を支えるロボットなど、糸島が困っている問題を最先端技術を使えばいいと思う。
- 市民が子育てに関わる場を設ける。子どもとお年寄りが触れ合う場をつくり、子ども達がコミュニケーションを学ぶことができれば、そこに行かせたい親も増え、町全体が賑わってくる。

【自然と共存する糸島】

- 豊かな自然を生かして、使われていない農地を「レンタル農地」として貸出し、収入を市民のために使う。
- 情報を世界規模で発信できるようになった。高層ビルなどではなく、糸島の豊かな自然を武器に、情報を発信して大都会と闘っていく。
- ショッピングモールなどを造れば人は集まるが、自然が壊れ糸島の良さが消えてしまう。糸島しかできない自然と都市の融合により誇れる糸島を創る。
- スギやヒノキを間伐して、木材を供給していく仕組みをつくることで、林業を営むことが可能になる。
- 公園を造り、特殊な遊具を設置する。遊具と充電器が繋がり運動することで発電する。その電気を街頭に使う。子ども達が自然に触れ合う機会が増え、電気代も減少し、一石二鳥。

【いろんな人と交流できる糸島】

- 観光客は多いが、ホテルが少ない日帰りになっている。エアコンが付いた小中学校を活用して、夏休みなど、小中学校に泊ってもらう「いとしま学泊」を行う。
- 自然を守るボランティアや農業・漁業体験を行ったり、お祭りなどのイベントを増やして、地域の人と観光客が繋がるまちを創り、多くの人に糸島に来てもらう。
- 糸島には地元食材を大事にし、消費する食文化がある。美味しい食材を巧みに利用し、市外の人や外国人観光客との繋がりを深め、活性化を図っていく。
- 子どもからお年寄りまで集えるカフェをつくり、1人でいる高齢者が多くの人と交流できるようにする。
- 飲食店などのメニューに外国語表記を行うなど、多くの外国人に来てもらい、観光地として発展する。
- 外国人が増え、会話をする機会も増えると思う。英語で会話し、多くの人がコミュニケーションを取り合えるグローバルな社会になる。

(3) 高校生未来会議“いとしま”(ワークショップ)の結果

【参加者】 糸島市の高校生 34 人

【開催日】 第 1 回 平成 30 年 8 月 17 日 第 2 回 平成 30 年 8 月 21 日

第 1 回 (主な意見)

【糸島市の“いいところ”(強み・魅力)】

自然が豊か(海・山)
外国人の観光客が多い
第一次産業が盛ん
地域の人や近所の人とのつながりが深い
インスタ映えスポットがある
伝統行事がある
食べ物が美味しい
観光スポットが多い
人々があたたかい

【糸島市の“もっとよくしたいところ”(弱み・改善点)】

移動手段が少ない(バスが少ない。電車の本数が少ない。)
遊ぶ場所が少ない(映画館、公園、お店など)
交通量が少ないところや住民が少ないところは街灯が少ない
高齢者の買い物が不便
治安をもっと良くして、安心して遊べる環境を作る
働ける場所が少ない



第2回（主な意見）

【強みを生かした取り組み】

海や山、さまざまな自然を生かしたツアーを行う

山や風景がキレイな場所に展望所をつくったり、マリンスポーツが体験できる場所をつくり、自然を体感できる観光地とする

外国人の観光客が増えているため、宿泊施設をつくり、より深く、長く糸島を体験、体感してもらう

SNS（ツイッター、インスタ）を利用して、糸島の観光地や特産品を紹介する

インスタ映えで若い世代を呼びこむ

農業体験を行い、農業に関心を持ってもらう

【弱みを克服する取り組み】

働き口が少ないため、自然を生かした企業を増やす

コミュニティバスがあまり浸透していないため、もっと利用してもらえるようにする

交通の便が悪いため、糸島を循環するバスを増やして、バス停を増やせば、車が無くても気軽に移動できるようになると思う

耕作放棄地を上手く活用して減らす為、新しく農業を営もうと考えている生産者等に対して講習会を開き、魅力を発信する

若年層の人口を増やすため、公園や保育園等を整備し、子育てのしやすい環境づくりを行う

空き家や放棄されている土地があるため、使われていない土地や空き家を宿泊施設等に活用する

(3) まちづくり市民委員会(ワークショップ)の結果

【参加者】 中学生以上の市内在住・在勤・在学の糸島市民

【開催日】 第1回 平成30年10月13日 第3回 平成30年10月27日

第2回 平成30年10月20日

第1回(主な意見)

【糸島市の“いいところ”(強み・魅力)】

自然が豊か(海・山)
海も山も美しく適切に田舎であるところ
災害が少ない
人があたたかい(人と人のつながりが強い)
新鮮な食材が多い(肉・野菜・魚)
福岡市へのアクセスが良い(JR・バス・都市高速)
交通の利便性が高い(JR・バイパス)
糸島ブランドができつつある

【糸島市の“もっとよくしたいところ”(弱み・改善点)】

沿線はずれると交通の便が大変悪い
前原の中心部はよいが、山側・海側の交通の問題
宿泊施設が少ないので観光客が素戾りする
もともといた地元の人との付き合いが難しいところがある
文化財のPRをもっと!!歴史的な価値をもっともっとアピールを!(神楽・邪馬台国・文化財 etc)
スポーツ施設や福祉施設の充実
働き手が福岡市へ流出
企業誘致

第2回（主な意見）

【強みを生かした取り組み】

糸農を含む学生との交流、糸農生との共同化、糸農の実績を活かした高校生レストラン
農業、林業、漁業、体験型のイベント（宿泊型）
おしゃれなお店にして、SNSで人をよびこむ
全ての糸島ブランドに統一したシンボルマークを！
観光マップの作成（糸島観光モデルコース 1ヶ所に寄って帰るのではなく、1日周れるような...）
若者の起業支援

【弱みを克服する取り組み】

移送サービスやコミュニティバスの充実
観光地以外でも必要な道路整備（特に歩者分離）を実施する
人材育成、「糸島でお金が巡る」しかけ
IT企業の誘致やベンチャー・ビジネス（九大等の潜在力活用）の起業で企業レベルの向上を図る。
介護保険や障害者福祉事業の経営が厳しいので安定した事業になる様にしてほしい。人材不足もあり地域の母子家庭は就労が大変。就労の場作りにも活用してほしい



第3回（5つの取組の方向性）

“糸島ブランド”強化プロジェクト

一次産品を生産するだけでなく、産品やその加工品をじっくり見てもらう観光の目的地となる農業・漁業（糸島のカキで作るオイスターソース）
農家宿泊、農業体験（アグリツーリズム）

地域ぐるみで取り組む子育て・教育環境プロジェクト

公民館が集いの場となるような取り組み（多世代）・子育てをしている親などの相談窓口

安心して暮らせるコミュニティづくりプロジェクト

昔ながらのコミュニティと新しい目的を持ったコミュニティがチームを組み、校区・行政区の行事を企画する

みんなで支え合う地域内交通プロジェクト

自転車事業・レンタル観光との連携
組織化された地域運行バス事業を打ち立てる

災害に負けない防災・減災プロジェクト

原発の避難訓練 避難訓練の充実 要支援者の避難訓練

6 まちづくりの基本方針（戦略）

➤ 自立度の高い糸島づくり

行政の自立・地域の自立（持続可能な視点）

➤ 魅力を磨き上げる糸島づくり

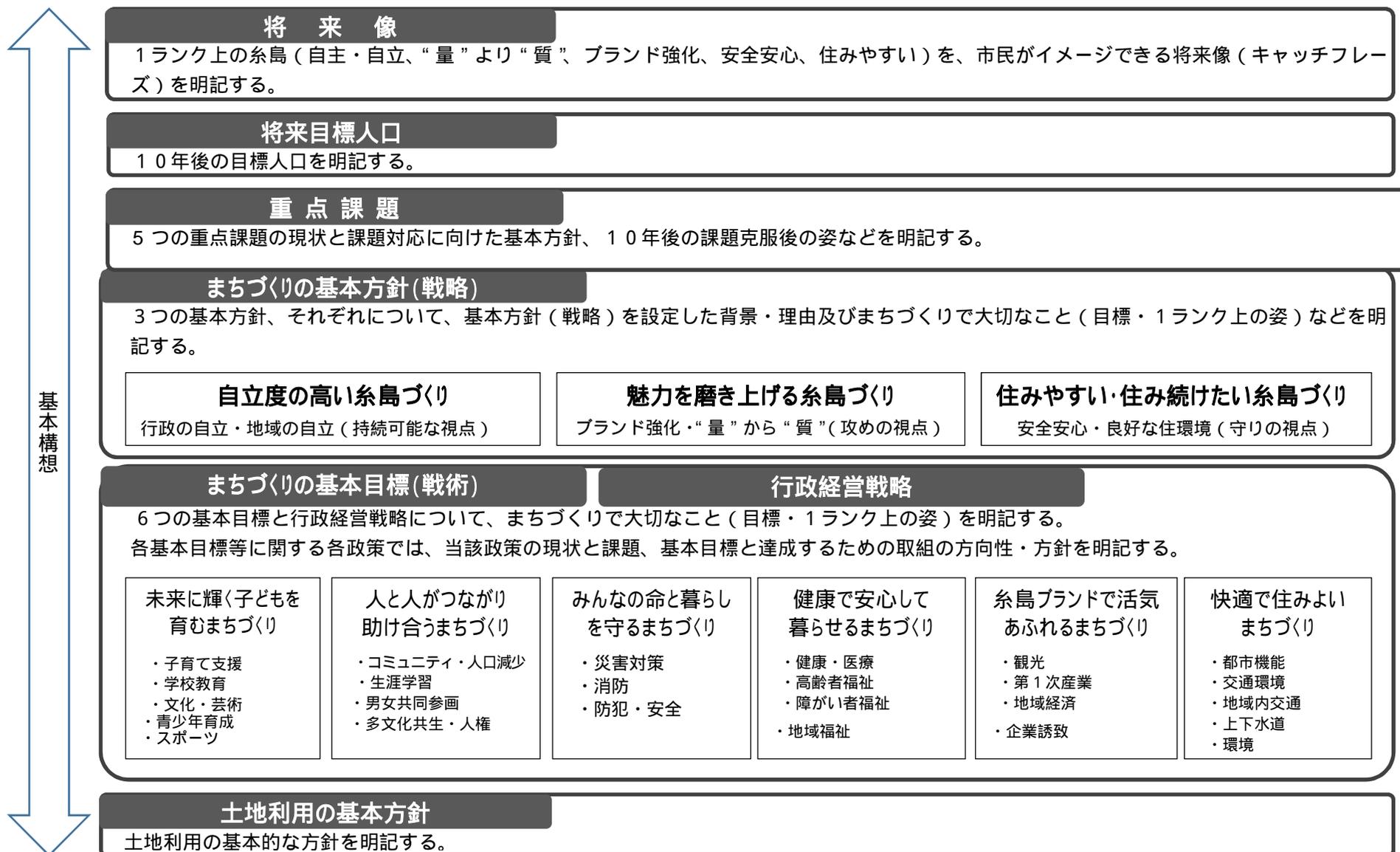
ブランド強化・“量”より“質”（攻めの視点）

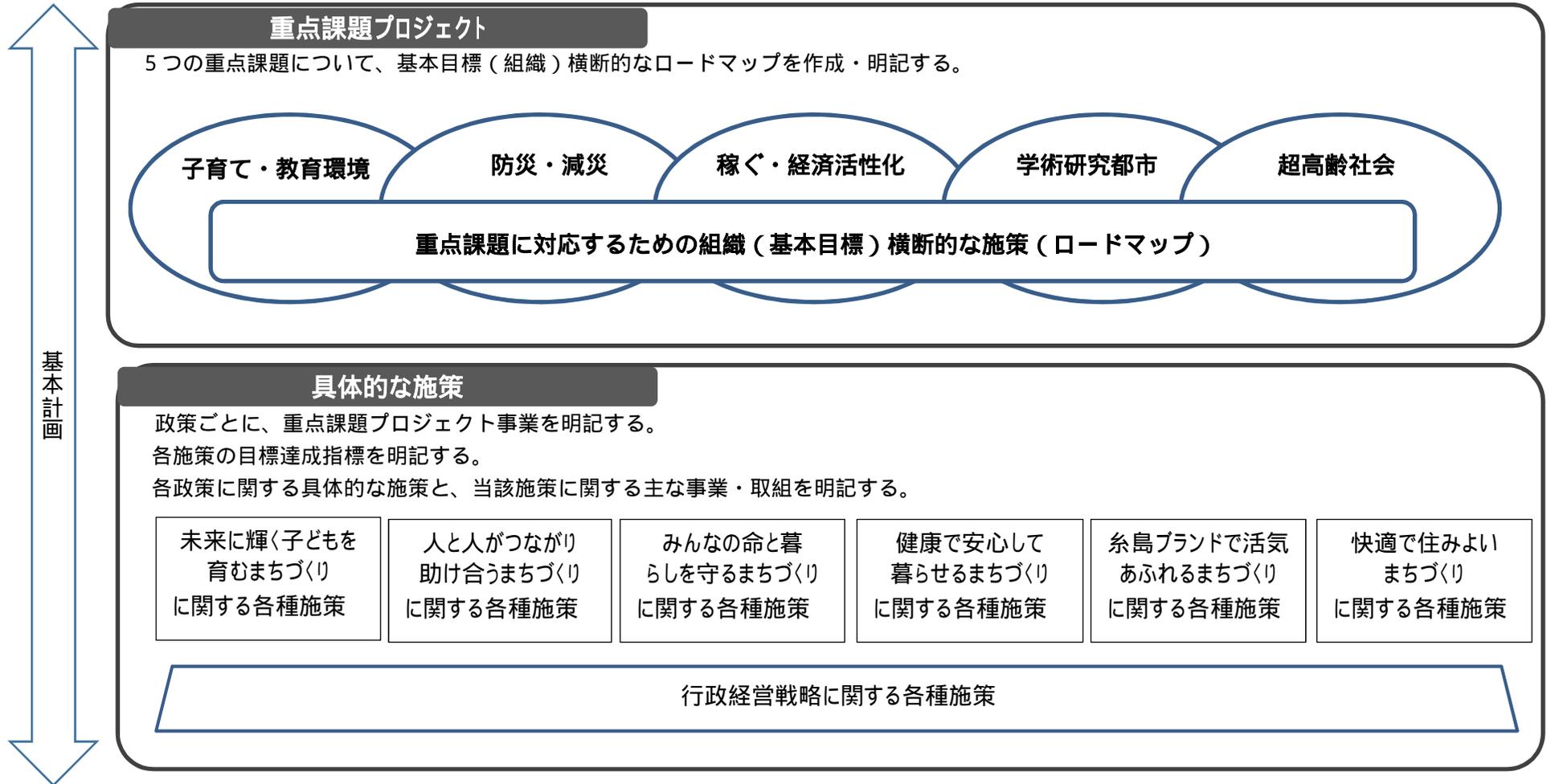
➤ 住みやすい・住み続けたい糸島づくり

安全安心・良好な住環境（守りの視点）

「まちづくりの基本目標」「重点課題プロジェクト」「戦略的な行政経営戦略」
を展開していく

基本構想・基本計画の記載内容（案）





まちづくり市民委員会スケジュール

日にち	会場
第1回 (6月15日土曜日)	糸島市人権センター3階大会議室
第2回 (7月20日土曜日) (8月24日土曜日)	糸島市役所5階1号会議室
第3回 (8月24日土曜日) (9月28日土曜日)	糸島市役所5階1号会議室
第4回 (10月19日土曜日)	糸島市役所5階1号会議室
第5回 (11月16日土曜日)	糸島市役所5階1号会議室

各回とも14時開始(2時間程度)